

特別支援学校学習指導要領に基づき、各教科の学びをつなぐ

「学びの履歴」シート

お使いいただく前に お読みください



目次

I 「学びの履歴」シートとは.....	1
II 「学びの履歴」シートについて.....	2
1 「学びの履歴」シートの目的.....	2
2 「学びの履歴」シートの種類.....	2
III 「学びの履歴」シートの記入の仕方.....	3
IV 「学びの履歴」シート 使用上の留意点.....	4
V シートの記入例.....	5

令和2年3月

福島県特別支援教育センター

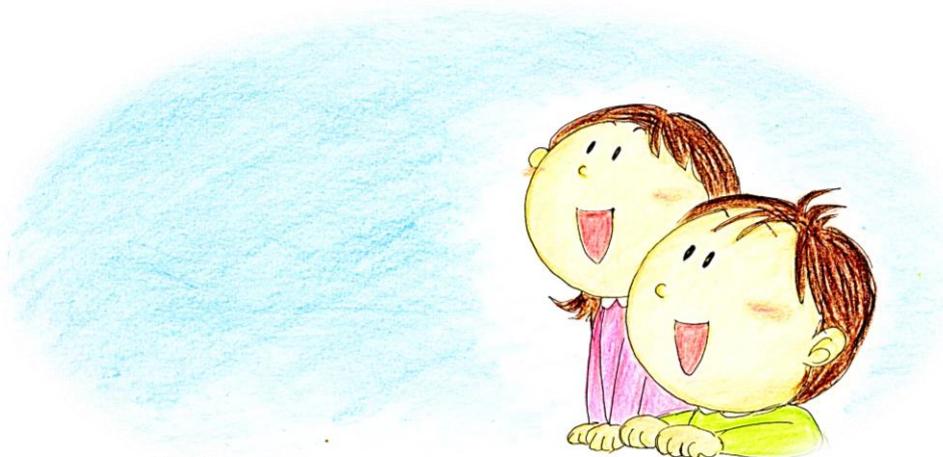
I 「学びの履歴」シートとは

平成29年4月、特別支援学校学習指導要領が改訂されました。今回の改訂では、小・中学校等に準じた改善や、インクルーシブ教育システムの構築に向けて、小・中学校等の教育課程との連続性を重視した改善が図られました。具体的には、「学びの連続性を重視した対応」として、重複障がい者等に関する教育課程の取扱いについての考え方が明示され、知的障がいのある児童生徒のための各教科が整理・充実しました。新しい時代の中で、障がいのある児童生徒が、自己のもつ能力や可能性を最大限に発揮し、自立し社会参加するために必要な力を培うための教育の充実が求められています。

福島県特別支援教育センターでは、平成30・令和元年度の研究テーマを「知的障がいのある児童生徒を教育する特別支援学校の各教科の指導の充実 ～新学習指導要領を踏まえた児童生徒の自立と社会参加に向けた資質・能力の向上を目指す実践研究～」として取り組んできました。

本研究を進めるにあたって、各教科の指導を充実させ、「学びの連続性」を実現していくためには、学習指導要領に基づいて、児童生徒が何を学び、何が身に付いたのかを明確にし、その学習状況を整理し、学ぶ内容をつないでいくことが必要であると考えました。その方策の一つとして作成したのが、この「学びの履歴」シートです。

小学部から高等部までの12年間の学びをより充実させ、児童生徒一人一人がその力を最大限に発揮できるように、その一助となれば幸いです。



これからの時代を生きるすべての子どもたちの

学ぶ喜びと、豊かな人生につながることを願って

Ⅱ 「学びの履歴」シートについて

1 「学びの履歴」シートの目的

「学びの履歴」シートは、特別支援学校学習指導要領に基づいて、各教科の学習状況を整理・把握し、児童生徒が学ぶ内容を明確にしてつなぐことを目指しています。

2 「学びの履歴」シートの種類

「学びの履歴」シートは、特別支援学校学習指導要領に基づいて、作成しています。学部ごとに下記の2種類のシートがあります。

- 「**学びの履歴**」**教科一覧**：当該学部で学習する教科の内容を一覧で示しています。
- 「**学びの履歴**」**各教科**：各教科の目標と内容の指導事項を示し、学年ごとに、習得状況を記入する欄を設けています。

「 学びの履歴 」 教科一覧	01. 小学部 教科一覧		
	02. 中学部 教科一覧		
「 学びの履歴 」 各教科	03. 高等部 教科一覧		
	小学部	中学部	高等部
	01. 生活 02. 国語 03. 算数 04. 音楽 05. 図画工作 06. 体育 07. 外国語活動 08. 別紙様式 ※外国語科と関連するため、外国語活動も掲載しています。	01. 国語 02. 社会 03. 数学 04. 理科 05. 音楽 06. 美術 07. 保健体育 08-1. 職業・家庭 職業分野 08-2. 職業・家庭 家庭分野 09. 外国語 10. 別紙様式	01. 国語 02. 社会 03. 数学 04. 理科 05. 音楽 06. 美術 07. 保健体育 08. 職業 09. 家庭 10. 外国語 11. 情報 12. 別紙様式

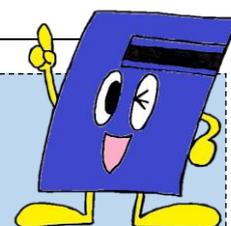
【参考文献】

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示）

特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年2月告示）

特別支援学校学習指導要領解説 総則編（平成30年3月）

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）（平成30年3月）



Ⅲ 「学びの履歴」シートの記入の仕方

「学びの履歴」シートは、「教科一覧」も「各教科」も、学習した内容には「○」、学習した内容をおおむね習得している場合は「◎」を記入します。まだ、取り扱っていない内容については、空欄にします。

詳しくは、「V 記入例」を御覧ください。

【学びの履歴】小学部 教科一覧

小学部 **4** 学年 氏名 **〇〇 〇〇** 記入日 令和 **〇** 年 **〇** 月 **〇** 日

	1 段階	習得状況	2 段階	習得状況	3 段階	習得状況	備考欄
生活	基本的な生活習慣	◎	基本的な生活習慣	◎	基本的な生活習慣		
	安全	◎	安全	○	安全		
	日課・予定	◎	日課・予定	○	日課・予定		
	遊び	◎	遊び	◎	遊び		
	人との関わり	◎	人との関わり	○	人との関わり		
	役割	◎	役割	○	役割		
	手伝い・仕事	◎	手伝い・仕事	○	手伝い・仕事		
	金銭の扱い	◎	金銭の扱い	○	金銭の扱い		
	きまり	◎	きまり	○	きまり		
	社会の仕組みと公共施設	◎	社会の仕組みと公共施設	○	社会の仕組みと公共施設		
生命・自然	◎	生命・自然	○	生命・自然			
ものの仕組みと働き	◎	ものの仕組みと働き		ものの仕組みと働き			
国語	知識及び技能	◎	知識及び技能	○	知識及び技能		
	言語の特徴や使い方	◎	言語の特徴や使い方	○	言語の特徴や使い方		
	我が国の言語文化	◎	我が国の言語文化	○	我が国の言語文化		
	話や文章の中含まれている情報の扱い方						
思考力・判断力・表現力等	聞くこと・話すこと	◎	聞くこと・話すこと	○	聞くこと・話すこと		
	書くこと	○	書くこと	○	書くこと		
	読むこと	◎	読むこと	○	読むこと		
算数	数量の基礎	◎	数と計算	◎	数と計算		
	図形	◎	図形	◎	図形		

「教科一覧」は、各教科の内容について、項目のみで示しています。

記入するときは「特別支援学校学習指導要領」で、各教科の段階の内容をよく確認してください。



【学びの履歴】各教科

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(H29) P89~95参照

小学部【国語】2 段階

領域	内容	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
知識及び技能	ア 日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。						
	イ 言葉が持つ事柄を想起したり受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。						
思考力・判断力・表現力等	ア 言葉の特徴や使い方				○	○	
	イ 我が国の言語文化						
知識及び技能	ア 聞くこと・話すこと						
	イ 書くこと						

特別支援学校学習指導要領のページを示しています。

各教科の段階の目標を示しています。

学習した内容の習得状況を学年ごとに記入します。

指導事項にも「○」や「◎」を記入することで、学習した内容が、より分かりやすくなります。

具体的な指導内容については、これらの内容に基づき、各校で、児童生徒の知的障がいの状態や経験等に応じて設定します。

IV 「学びの履歴」シート 使用上の留意点

○ 特別支援学校学習指導要領をご確認ください。

「学びの履歴」シートの項目は、特別支援学校学習指導要領に示す各教科の内容に基づいて示しています。記入する際には、特別支援学校学習指導要領を確認してください。

各教科の目標や内容の取扱いについて詳しく示した、特別支援学校学習指導要領解説各教科等編も活用してください。

- 特別支援学校小・中学部学習指導要領（平成 29 年 4 月告示）
- 特別支援学校高等部学習指導要領（平成 31 年 2 月告示）

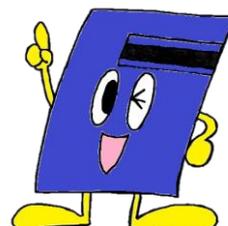
○ 各校のニーズに合わせてお使いください。

「学びの履歴」シートは、各教科の指導にあたって、特別支援学校学習指導要領に基づいて学習状況を整理・把握し、学ぶ内容を明確にするために作成した 1 つのツールです。具体的な指導内容については、これらの内容に基づき、各校で児童生徒の知的障がいの状態や経験等に応じて設定してください。

PDF 版と Word 版がありますので、福島県特別支援教育センター Web サイトより、必要なところをダウンロードしてお使いください。

検索 福島県特別支援教育センター

<https://special-center.fcs.ed.jp/>



V シートの記入例

○ 表紙

【学びの履歴】

学 校 名 **〇〇 支援学校**

児童生徒名 **〇〇 〇〇**

【記載年月日】

学部・学年	年月日	学部・学年	年月日	学部・学年	年月日
小1		小5		中3	
小2		小6		高1	
小3	H30年3月18日	中1		高2	
小4	R元年3月19日	中2		高3	

【学びの履歴】小学部 教科一覧

小学部 4 学年	氏名 〇〇 〇〇
-----------------	-----------------

記入日 年 月 日

	1 段階	習得状況	2 段階	習得状況	3 段階	習得状況	備考欄	
生活	基本的生活習慣	◎	基本的生活習慣	◎	基本的生活習慣		<p>2段階の内容を中心に組み組んでいる児童の例です。 （太枠等で囲む必要はありませんが、学んでいる段階が分かるように表記を工夫してください。）</p> <p>学習した内容には「○」を記入し、まだ取り扱っていない場合は、「空欄」にします。</p> <p>学習した内容をおおむね習得している場合は、「◎」を記入します。</p>	
	安全	◎	安全	○	安全			
	日課・予定	◎	日課・予定	○	日課			
	遊び	◎	遊び	◎	遊び			
	人との関わり	◎	人との関わり	○	人と			
	役割	◎	役割	○	役割			
	手伝い・仕事	◎	手伝い・仕事	○	手伝			
		◎	金銭の扱い	○	金銭			
		◎	きまり	○	き			
		◎	社会の仕組みと公共施設	○				
		◎	生命・自然		生命			
		◎	ものの仕組みと働き		もの			
		◎	知識及び技能	知識及び技能	○	知識及び技能		
		◎	思考力判断力表現力等	思考力判断力表現力等	○	思考力判断力表現力等		
算数	数量の基礎	◎	数量の基礎	◎	数量の基礎	○		
		◎	数量の基礎	◎	数量の基礎			
	数と計算	◎	数と計算	◎	数と計算			
		◎	数と計算	◎	数と計算			
	図形	◎	図形	◎	図形			
		◎	図形	◎	図形			
	測定	◎	データの活用	◎	データの活用			
		◎	データの活用	◎	データの活用			
		◎	データの活用	◎	データの活用			
		◎	データの活用	◎	データの活用			

1段階の内容を学習しおおむね習得したら、2段階の内容を取り扱います。1段階で習得されていない内容が一部あるときには、内容を習得できるように、補充的な学習を取り入れて指導を行います。

2段階の内容を中心に組み組んでいる児童の例です。
（太枠等で囲む必要はありませんが、学んでいる段階が分かるように表記を工夫してください。）

学習した内容には「○」を記入し、まだ取り扱っていない場合は、「空欄」にします。

学習した内容をおおむね習得している場合は、「◎」を記入します。

2段階で学習した内容をおおむね習得してから3段階の内容を取り扱うこととなりますが、学習内容の理解を一層深め、広げる観点から、発展的な学習として3段階の内容を取り上げていく必要もあります。

	1段階		習得状況	2段階		習得状況	3段階		習得状況	備考欄						
	表現	鑑賞		表現	鑑賞		表現	鑑賞								
音楽	表現	音楽遊び	◎	表現	歌唱	○	表現	歌唱								
		器楽	○		器楽											
		音楽づくり	○		音楽づくり											
		身体表現	○		身体表現											
音楽	鑑賞	音楽遊び	◎	鑑賞	鑑賞	○	鑑賞	鑑賞								
		共通事項	聴き取ったことと感じたこととの関わりについて考えること		◎	共通事項		聴き取ったことと感じたこととの関わりについて考えること	○	共通事項	聴き取ったことと感じたこととの関わりについて考えること					
			絵譜や色を用いた音符等について音楽における働きと関わらせて、その意味に触れること		◎			共通事項	絵譜や色を用いた音符等について音楽における働きと関わらせて、その意味に触れること		○	共通事項	絵譜や色を用いた音符等について音楽における働きと関わらせて、その意味に触れること			
図画工作	表現	線を引く、絵をかくなど	◎	表現	身近な出来事や思ったことを基に絵をかく、粘土で形を作るなど	○	表現	日常生活の出来事や思ったことを基に絵をかく、粘土で形を作るなど								
		鑑賞	身の回りにあるものや自分たちの作品などの鑑賞		◎	鑑賞		身の回りにあるものや自分たちの作品などの鑑賞	○	鑑賞	自分たちの作品や身の回りにある作品などの鑑賞					
			共通事項		自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などの違いに気付くこと			◎	共通事項		自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などの違いに気付くこと	○	共通事項	自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などの違いに気付くこと		
					形や色などを基に自分のイメージをもつこと			◎			共通事項	形や色などを基に自分のイメージをもつこと		○	共通事項	形や色などを基に自分のイメージをもつこと
体育	表現遊び	体づくり運動遊び	◎	表現遊び	体づくり運動	○	表現遊び	体づくり運動								
		器械・器具を使つての遊び	◎		器械・器具を使つての運動	○		器械・器具を使つての運動								
		走・跳の運動遊び	◎		走・跳の運動	○		走・跳の運動								
		水遊び	◎		水の中での運動	○		水の中での運動								
		ボール遊び	◎		ボールを使った運動やゲーム			ボールを使った運動やゲーム								
		表現遊び	◎		表現運動			表現運動								
		保健(健康な生活に必要な事柄)	◎		保健(健康な生活に必要な事柄)			保健(健康な生活に必要な事柄)								

※外国語活動については、児童や学校の実態を考慮し、必要に応じて設けることとする。

中学部の外国語科と関連しているため、外国語活動も記載しています。

※外国語活動	知識及び技能	英語の特徴等	言語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを体験すること	
			日本語と外国の言語や文化について、体験を通して慣れ親しむこと	身近で簡単な事柄について、注目して見聞きしようとする
※外国語活動	思考力判断力表現力等	自分の考えや気持ちなどを表現したり、伝えたりする力の素地	身近で簡単な事柄について、相手の働きかけに応じようとする	
			身近で簡単な事柄について、相手の働きかけに応じようとする	

【学びの履歴】各教科

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(H29) P89～95参照

小学部【国語】 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
(1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し使うことができるようにする。	(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思考力や想像力を養う。	(3) 言葉で伝え合うよさを感じるとともに、言語感覚を養い、国語を大切にすることでその能力の向上を図る態度を養う。
【1段階】		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
ア 日常生活に必要な身近な言葉が分かり使うようになるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	イ 言葉をイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。	ウ 言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする態度を養う。
【2段階】		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
ア 日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	イ 言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。	ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。
【3段階】		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
ア 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。	イ 出来事の順序を思い出す力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思い付いたり考えたりすることができるようにする。	ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。

■ 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(H29)に示される各教科の「目標」に照らして、その「内容」の習得状況を記入する。

○:学習した内容 ◎:学習した内容をおおむね習得している

* まだ学習していない内容については、空欄にする。

【学びの履歴】各教科

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(H29) P89～95参照

小学部【国語】1段階

目標

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
ア 日常生活に必要な身近な言葉が分かり使うようになるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	イ 言葉をイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。	ウ 言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする態度を養う。

内容

		1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年
知識及び技能	ア 言葉の特徴や使い方 (ア) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。 (イ) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージを受け止めたりすること。			◎	◎		
	イ 我が国の言語文化 (ア) 昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。 (イ) 遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。 (ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㊦ いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること。 ㊧ 筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。 (エ) 読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。			◎	◎		
思考力・判断力・表現力等	A 聞くこと・話すこと ア 教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。 イ 身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。 ウ 伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。			◎	◎		
	B 書くこと ア 身近な人との関わりや生活の様子などを選び、書くことを選択したりすること。 イ 文字に興味をもつこと。			○	○		
	C 読むこと ア 教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き、注目すること。 イ 絵本などを見て、知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること。 ウ 絵や矢印などの記号で表された意味に応じ、行動すること。 エ 絵本などを見て、次の場面を楽しみにしたり、登場人物の動きなどを模倣したりすること。			○	◎		

「学びの履歴」シートを使い始めた学年から記入します。

学習した内容には「○」を記入し、学習した内容をおおむね習得した場合は、「◎」を記入します。
「○」については、継続学習が必要な場合を含みます。

【学びの履歴】各教科

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(H29) P89～95参照

小学部【国語】 2段階

目標

知識及び技能		思考力・判断力・表現力等		学びに向かう力・人間性等					
ア 日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。		イ 言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。		ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。					
内容				1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年
知識及び技能	ア 言葉の特徴や使い方 ① 身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じること。 ② 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。 ③ 身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。						○	○	
	イ 我が国の言語文化 ① 昔話や童謡の歌詞や歌などを通して、言葉の響きやリズムを楽しむこと。 ② 遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむこと。 ③ 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ④ いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむこと。 ⑤ 写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付けること。 ⑥ 読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑などに興味をもつこと。						○	○	
思考力・判断力・表現力等	A 聞くこと・話すこと ① 身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりすること。 ② 簡単な指示や質問に答えること。 ③ 体験したことや感じたこと、考えたことなどを伝えたり、説明したりすること。 ④ 挨拶をしたことなどについて、自分の気持ちを伝えたりすること。						○	○	
	B 書くこと ア 経験したことのうち身近なことについて、写真などを手掛かりにして、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。 イ 自分の名前や物の名前を文字で表すことができることを知り、簡単な平仮名をなぞったり、書いたりすること。								
	C 読むこと ア 教師と一緒に絵本などを見て、登場するものや動作などを思い浮かべること。 イ 教師と一緒に絵本などを見て、時間の経過などの大体を捉えること。 ① 日常生活でよく使われている表示などの特徴に気付き、読もうとしたり、表された意味に応じた行動をしたりすること。 ② 絵本などを見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣したりすること。							○	

各教科の内容に示されている指導事項です。指導事項についても「○」や「◎」の印を記入しておく、学習した内容が分かりやすくなります。

2段階の内容を中心に取り組んでいる児童の例です。(太枠等で囲む必要はありません。) まだ取り扱っていない場合は、「空欄」にします。

【学びの履歴】各教科

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(H29) P89～95参照							
小学部【国語】 3段階							
目 標							
知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等					
ア 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。	イ 出来事の順序を思い出す力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思い付いたり考えたりすることができるようにする。	ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。					
内 容		1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年
知識 及び 技能	ア 言葉の特徴や使い方 (ア)身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。 (イ)姿勢や口形に気を付けて話すこと。 (ウ)日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。 (エ)言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。 (オ)文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。 (カ)正しい姿勢で音読すること。						
	イ 話や文章の中に含まれている情報の扱い方 (ア)物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。 (イ)図書を用いた調べ方を理解し使うこと。						
	ウ 我が国の言語文化 (ア)昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。 (イ)出来事や経験したことを伝え合う体験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れること。 (ウ)書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㊦ 目的に合った筆記具を選び、書くこと。 ㊧ 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。 (エ)読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知ること。						
思考力・ 判断力・ 表現力等	A 聞くこと・話すこと ア 絵本の読み聞かせなどを通して、出来事など話の大体を聞き取ること。 イ 経験したことを思い浮かべ、伝えたいことを考えること。 ウ 見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどについて思い付いたり、考えたりすること。 エ 挨拶や電話の受け答えなど、決まった言い方を使うこと。 オ 相手に伝わるよう、発音や声の大きさに気を付けること。 カ 相手の話に関心をもち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすること。						
	B 書くこと ア 身近で見聞きしたり、経験したりしたことについて書きたいことを見付け、その題材に必要な事柄を集めること。 イ 見聞きしたり、経験したりしたことから、伝えたい事柄の順序を考えること。 ウ 見聞きしたり、経験したりしたことについて、簡単な語句や短い文を書くこと。 エ 書いた語句や文を読み、間違いを正すこと。 オ 文などに対して感じたことを伝えること。						
	C 読むこと ア 絵本や易しい読み物などを読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像すること。 イ 絵本や易しい読み物などを読み、時間的な順序など内容の大体を捉えること。 ウ 日常生活に必要な語句や文、看板などを読み、必要な物を選んだり行動したりすること。 エ 登場人物になったつもりで、音読したり演じたりすること。						